



# 固定資産

# 使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

# 目次

1. 固定資産とは
2. 減価償却
3. 固定資産の売却



今回は私が案内するよ！

今回は固定資産について  
説明する。

# 1. 固定資産とは

今回説明するのは固定資産だ。

固定資産とは、企業が使用する目的で購入し、1年以上にわたって保有する資産で、3級で出てくる内容としては

- ・土地
- ・建物
- ・備品
- ・機械
- ・車輛運搬具

などがある。

これらのものは目に見える形の固定資産なので、有形固定資産という。

詳しくは2級以上なので、気にする必要はないよ！



# 1. 固定資産とは

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	資産	(貸方)
	資産	負債	増加(+)		減少(-)
		資本			

固定資産は資産に含まれる勘定なので、  
増加は借方(左側)に、減少は貸方(右側)に記入する！

☆固定資産が増加したとき(購入など)  
(借方) **建物など** ××× (貸方) ×××

☆固定資産が減少したとき(売却など)  
(借方) ××× (貸方) **建物など** ×××



# 1. 固定資産とは

固定資産を購入したときにかかった手数料などは購入代金に含むことには注意！

それでは、具体的な仕訳を見てみよう。

A社は商品管理のための倉庫を¥5,000,000で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、登記料¥30,000は現金で支払った。

資産の増加

◀ ▶  
(借方) **建物 5,030,000** (貸方) **当座預金 5,000,000**  
**現金 30,000**

資産の減少

資産の減少

ここまではいいかな？



## 2. 減価償却

次に、固定資産の重要な論点である減価償却について説明する。

今見たように、固定資産は帳簿に取得金額で記されているから例えば10万円で買ったパソコンは10万円と記されている(当たり前)。つまり、10万円分の価値だと記されているわけだ。

でも、皆さんが今使っているパソコンを売るとして、買ったときと同じ価値だと言えるだろうか？

売るとしたら、買ったときよりもずっと少ない値段でしか売れないよね？

このことからわかるように、時間が経つにつれて、パソコンの価値を徐々に小さくする処理をすることが正しい処理といえるわけだ。何年も前に10万だったパソコンが今でも10万と表示されているのはおかしいということだ。

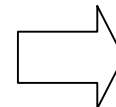
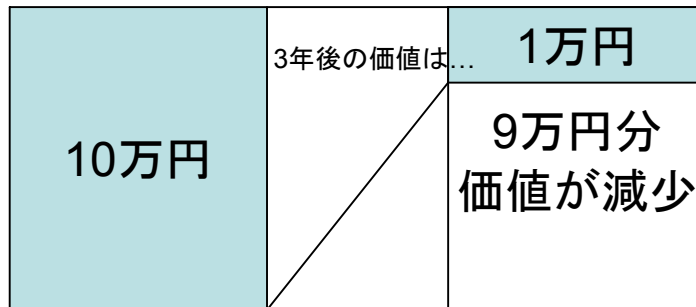


## 2. 減価償却

今までのことを整理するよ。

固定資産は使っていくうちに古くなり、価値が減っていく。  
この固定資産の価値の減少を、使用される期間にわたって費用として計上していくことを減価償却という。

先ほどの10万円のパソコンの例で言うと、3年使った後に価値が1万円になっているとする(これは普通問題中に示される)と、残存価格が1万円、毎年の減価償却費(費用)は3万円と考えられる。



毎年3万円ずつ  
価値が減っていると  
考える

## 2. 減価償却

次に、用語を確認しながら、減価償却費の出し方について見ていく。  
固定資産の価値が年々減少していく時に使う勘定が減価償却費。  
また、使用し続ける期間が耐用年数。  
そして、3級では今見たような方法の定額法を使う。

今の例で言うと、9万円分を3年で割って、毎年3万円ずつ  
減価償却費がかかるとして扱うんだ。  
毎年同じ額が費用として扱われるので定額法と呼ばれる。

さらに、減価償却費の記帳の方法は直接法と間接法がある。  
これを今から具体的に見ていくよ。



## 2. 減価償却

まずは直接法だ。

この方法は、名前の通り、固定資産の価値を直接減少させる方法だ。

パソコンの例だと、毎年3万円ずつ価値を下げることは説明してきた。  
期首に残存価格10,000、耐用年数3年の備品100,000を  
購入したとしよう。

(借方) **備品 100,000** (貸方) **現金など 100,000**

とするのは、もういいね。

そして1年経った期末には、  
 $(100,000 - 10,000) \div 3 = 30,000$ 円分、  
備品の価値を下げるのが正しい処理であることも説明してきた。



## 2. 減価償却

直接法はここで

費用の発生

(借方) **減価償却費 30,000** (貸方) **備品 30,000**

資産の減少

という処理をする。

先ほど

(借方) **備品 100,000** (貸方) **現金など 100,000**

という処理をしたので、今の2つの仕訳を合わせると

(借方) **備品 70,000** (貸方) **現金など 100,000**

(借方) **減価償却費 30,000**

となり、しっかりと30,000分減らされた実態が現れているわけだ！



## 2. 減価償却

費用の発生

さらに、次期末にも

減価償却費 30,000 (貸方) 備品 30,000

資産の減少

と処理し、その年の貸借対照表には  
昨年の備品70,000円と相殺されて、備品は40,000円残っている。

ここまですら整理すると

1年目末: 70,000円

2年目末: 40,000円

が備品の価値とすることになるんだ。

ただ、直接法には都合の悪い点がある。

それは、直接価値を減らしてしまうと、取得金額がわかりにくくなって  
しまうということだ。

そこで、普通は間接法が使われる。



## 2. 減価償却

間接法の場合、期末ごとに

費用の発生

(借方) **減価償却費 30,000** (貸方) **減価償却累計額 30,000**

負債の増加  
と考える

という処理をする。

減価償却累計額とは、その名の通り減価償却分を溜めておいて、必要な時だけ差し引いて使うものだ。

備品取得時に

(借方) **備品 100,000** (貸方) **現金など 100,000**

という処理をしたので、取得時と1年目末の仕訳を合わせると

(借方) **備品 100,000** (貸方) **現金など 100,000**

(借方) **減価償却費 30,000** (貸方) **減価償却累計額 30,000**

となる。



## 2. 減価償却

さらに、次期末にも  
(借方) **減価償却費 30,000** (貸方) **減価償却累計額 30,000**  
と処理する。

今までの仕訳を合わせると、2回分の減価償却費が引かれて  
(借方) **備品 100,000** (貸方)  
(借方) (貸方) **減価償却累計額 60,000**

となっている。

ここでは、  
購入金額: 100,000円  
現在の価値:  $100,000 - 60,000 = 40,000$ 円  
との両方がわかりやすくなっている。

一般的に間接法が使われ、試験でもこっちの方法が出る。



## 2. 減価償却

それでは、具体的に見ていこう！

下記の資料にもとづいて、間接法の減価償却の処理をなさい。

備品：¥500,000

耐用年数5年 残存価格は取得金額の10% 定額法

建物：¥2,000,000

耐用年数15年 残存価格は取得金額の10% 定額法

(借方) 備品減価償却費 90,000 (貸方) 備品原価償却累計額 90,000  
(借方) 建物減価償却費 120,000 (貸方) 建物原価償却累計額 120,000

$$500,000 \times 0.9 \div 5 = 90,000$$

$$2,000,000 \times 0.9 \div 15 = 120,000$$

となるのは理解できているかな？



# 3. 固定資産の売却

最後に、固定資産を売却したときの処理を説明するよ。

ポイントは、売却時の価値で処理するということだ。

またまたさっきのパソコンの例を使うと、1年経った時点でパソコンの価値は70,000円となっている。

つまり、

(借方) **備品 100,000** (貸方)

(借方) (貸方) **減価償却累計額 30,000**

という状態になっている(間接法を使って説明するよ)。



# 3. 固定資産の売却

ここで、このパソコンが現金50,000円で売れたとしよう。  
このパソコンの価値は70,000円だから、20,000円の損となる。

この仕訳を見てみると。

(借方)	<b>減価償却累計額</b>	<b>30,000</b>	(貸方)	<b>備品</b>	<b>100,000</b>
(借方)	<b>現金</b>	<b>50,000</b>			
(借方)	<b>固定資産売却損</b>	<b>20,000</b>			

合わせて備品  
70,000円分の  
資産が減少してい  
ると考えてよい

のようになる！



# 3. 固定資産の売却

今度は、現金80,000円で売れたとしよう。  
価値は70,000円だから、10,000円分得する計算になる。

そのときの仕訳は

(借方)	<b>減価償却累計額</b>	<b>30,000</b>	(貸方)	<b>備品</b>	<b>100,000</b>
(借方)	<b>現金</b>	<b>80,000</b>	(貸方)	<b>固定資産売却益</b>	<b>10,000</b>

となる。

仕訳は借方と貸方の合計は同額になるので、わかるところから埋めていき、残りは差額で考えることも重要だ！

では、具体的に見ていこう！



# 3. 固定資産の売却

建物(取得原価 ¥3,000,000、減価償却累計額 ¥2,100,000)を ¥1,000,000で売却し、代金は月末に受け取る約束をした。

(借方) **減価償却累計額 2,100,000** (貸方) **建物 3,000,000**  
(借方) **未収金 1,000,000** (貸方) **固定資産売却益 100,000**

合計額が借方・貸方ともに3,100,000円になっていることを確認する癖を付けて欲しい！



# まとめ

1. 固定資産とは  
1年以上の期間にわたって使用される資産
2. 減価償却  
固定資産の価値を減少させること
3. 固定資産の売却  
売却時点の価値で処理する

以上です。



# 終わりに

お疲れ様、今回はここまでです！

だいたいイメージが出来たら、テキストで確認して知識を確かなものにして下さい！

それでは！



# 制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級  
<http://boki3.source-of-information.com/>  
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、  
[info@source-of-information.com](mailto:info@source-of-information.com)  
までお寄せ下さい。